

信仰によってラハブは

2025年3月30日

ヘブル人への手紙	1 1 章 3 1 節
ヨシュア記	2 章 1 ~ 2 4 節
	6 章 2 2 ~ 2 5 節
ヤコブの手紙	2 章 2 5 節
マタイの福音書	1 章 5 節

序：前はカナンに入ったイスラエル人に立ちはだかる最初の要衝エリコの陥落
全能の神以外に、何も頼るところはなかった
神の方法、神の力、神の御業に信頼して、奇妙な命令に従った
結果は圧倒的勝利

ほとんどのエリコの住民が滅んだ中で救出されたラハブと家族

I. ラハブはどんな人か

(1)エリコの遊女（異邦人）

旅人を泊める宿（彼女の家は城壁の中に建て込まれていた）
旅人、客たちから世の情報を得た

(2)両親、兄弟姉妹と彼らの家族がいた

同居していたかどうかは不明
しかし、少なくとも近く（同じ城壁の中に住んでいた）

(3)亜麻を栽培していた

複数の生計を立てる手段を持っていた

(4)信仰の人、行いによって義と認められた人

(5)人としてのイエス・キリストの先祖の一人

マタイ1章のイエス・キリストの系図中、女性は4名（そのうちの一人）
イスラエルの部族長サルモンと結婚してボアズを産む
息子ボアズはモアブ人ルツと結婚

II. ラハブの信仰

(1)ヨシュアに派遣された二人の斥候をかくまった

ほかの客とは違う（イスラエル人ではないか）
出エジプトの奇跡、エモリ人の二人の王と民を全滅させた強力な神の民のことは
耳に入っていた

(2)エリコの王の命令には従わず、屋上に干してあった亜麻の茎の中に二人を隠した 機敏な行動

(3)王からの追っ手に対して、巧みな弁明

勇気ある適切な言動
二人は確かに来たけれど、出ていった。どこに行ったか自分は知らない。
追っていけば間に合うでしょう。（城門が閉じられるタイミング）

(4)すでに与えられていたイスラエルの神への信仰

①神はイスラエルにカナンの地を与えておられる

②イスラエルをエジプトから導き出された神は生きて働かれる神である
紅海の水を枯らした
ヨルダン川の東のエモリ人を滅ぼされた

③その快進撃のことを聞いて、エリコの町は震えおののいている、意気消沈
自分たちも滅ばされることがわかっている、成す術なく恐慌状態であると説明

④信仰告白 11節b (思いがけない、異邦人の遊女の告白)
あなたがたの神、主は、上は天、下は地において神であられる

⑤この神によって救われることを願った
このエリコの町が崩壊する時、不信者たちと同じ滅びに行かないように

⑥ふたりの斥候(ヨシュア、イスラエルの代表)との約束
自分と身内の者がエリコ陥落の時、死から救い出されるようにしてください
主がエリコをイスラエルの手に渡される時、真実と誠実を尽くそう
決して口外しないことが条件

⑦ラハブはふたりを城壁伝いに窓からつり降ろした
山地のほうで3日間、追っ手から身を隠して(出会わないように)その後帰る
よう勧めた

⑧目印は、つり降ろした窓に結びつけられた赤いひも
ラハブの一族を家に全員集めておく

Ⅲ. 結果 6・22～25

(1)エリコ陥落の日、ヨシュアはふたりにラハブと一族を連れ出して、イスラエルの宿営の外にとどめておいた エリコの町は陥落、焼き払われた
ラハブと彼女に属する者は滅びを免れ、救われた

(2)ラハブはイスラエル人の中に住んだ(一員として)

理由: ラハブがヨシュアの使者(偵察)たちをかくまったから
同じ神を信じ、二人の人に真実を尽くした(神への信仰、人への真実)

Ⅳ. 結び

(1)神の救いはどんな身分、経歴、民族などによらず、信仰によって与えられる
異邦人の遊女にもたらされた大いなる光栄 ⇒ 求める人には希望がある
神のことを聞く ⇒ 知る ⇒ 受け入れる(信じる) ⇒ 信仰告白

(2)信仰はよき行い(神に従い仕える、隣人を助ける)を生み出す
行いによって信仰が証明される(行いのない信仰は死んでいる)
実によって木を知る
心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして

(3)約束(契約)、誓いは双方の真実と誠実がなければ成就しない
ラハブとふたりの斥候は、再三確認 そのとおりに実行

(4)窓に結びつけられた赤いひもは、過越の子羊の血、ひいてはイエス・キリストの十字架上の贖いの血の象徴
結びつけておくように言う 言われたとおり結んだ(by 信仰)
命じた人を信用した
その効用を信じた

(5)信仰による報い

①心の平安、救いの確信

②自分と家族の救い

③神の民の一人に加えられる(新約:教会の一員)

④身に余る祝福

ラハブは異邦人、それも遊女 ⇒ イスラエルの民、部族長の妻
メシアの先祖に名を連ねる